

2020年

クリスマスメッセージ

「闇の中を照らすまことの光」

新木一郎

きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。(ルカの福音書)

クリスマスおめでとうございます。

今年も皆さんとクリスマスを祝う幸いを感謝します。

この2020年は皆さんにとってどのような一年でありましたか。新型コロナウイルスの問題で私達の生活がいろいろと制約を受けた特別な年だと思えます。単に病気そのもの問題というよりは、その二次的、三次的影響で社会活動がノーマルに営めないというジレンマを共に経験しています。病院、学校、施設、企業、自治体などの現場でマスクの着用、遠隔教育やリモートワーク、遠隔会議など活動の仕方を変えざるえませんでした。このことを覚えながらクリスマスメッセージを語っていきます。

さて、クリスマスとは何でしょうか。御存知のようにイエス・キリストが今から約二千年前にお生まれになったことを祝う日です。

さきほど冒頭で読んだ聖書の箇所はルカの福音書の二章の部分ですが、この二章全体を読むとイエス様の誕生にまつわる背景が描かれています。

ある日、羊飼いたちが野宿で夜の番をしながら羊の群れを守っていました。そこに突然、天の御使いが現れたのです。羊飼いたちはびっくりしました。そこに御使いが羊飼いたちに言います。「恐れることはありません。・・・きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」

御使いのその言葉を聞いて、早速、羊飼いたちはその場を離れて「ダビデの町」すなわちベツレヘムに向かって、この救い主である小さな赤ちゃんを拝するために行きました。

同じその頃月、星の動きを研究していた東方の博士たちもベツレヘムに向かって誕生する救い主を礼拝するためにはるばると、おそらく東方、今のイランの辺りから行きました。彼らはキリストの誕生する時期について、月、星の動きのしるしを観測して知ることができました。

キリストの誕生はキリストが生まれる千年前から旧約聖書、^{よげん}預言書で預言されていました。この預言書というのは、予め起こる出来事を記した歴史書です。また、加えて聖書は過去に起こった出来事、歴史が書かれています。そういう点で、聖書全体が広い意味で預言書だと言って過言ではありません。ある方が言っておられましたが、聖書をキリスト教の^{もったい}經典として読むのは勿体ない話です。預言書、歴史書として読むときに世界の歴史がこれから先、どのように動いていくのか、そのシナリオがわかるという話をされていました。聖書は一つの歴史観を示しています。

話を元に戻します。主イエス様はなぜ、この世にお生まれになったのでしょうか。その理由を話します。結論的に言いますと、私達の人類の罪を贖うための来られました。イエス様はいのちを持って私達の罪を償うために来られました。イエス様は私達の心の闇を照らすために来られました。

心の闇について少し、個人的な話をします。私は、脳性麻痺と言って言語障害、両手、両足、体幹に障害があります。加えて補聴器ユーザーであり、補聴器をはめないと会話が十分にできません。

このような状況の私でしたが、私の人生は健常者と同じように普通に生活することでした。いや、健常者に追いつき、それ以上に追い越すことだったと思います。しかし、二十代の半ばの学生時代は退学寸前までいきました。このようになったのは自分の障害のためだと自分を呪いました。このひねくれるのはまだ、いいのですが、他人の持っているもの、幸いを妬ましく思いました。さらに人を憎むようなところまで近くなりました。

イエス様は言われましたね、「人を憎むことは、その人を殺すことと同じだ。」と。こ

れを知ったとき、自分の心の闇を指摘された思いがしました。そのようなことだと自分は何人の人を心の中で殺してきたかと思いました。ちょっと恐ろしくなりました。でも、これが聖書で言う罪です。一言で言えば、自己中心性です。

この「人を殺してはならない」、これは旧約聖書で律法をまとめた十戒の中にありますが、実のところ、イエス様は律法の本質を話されたのだと思います。律法は形だけを守っても、実質を伴わなければ、意味がなさないのです。それが神様の御心です。

そういう点で完全に律法を守れる人は誰もいません。ですから、「義人（正しい人）はいない。誰ひとりいない。」と聖書は言います。律法を守ること、自分の力で、行いで救うことは出来ず、罪の解決はありません。

イエス・キリストが生まれる前の旧約時代、イスラエルの人々は罪の代価を償うために祭壇に生ける子羊を屠り、血を流し、捧げていました。これは毎回、毎回、捧げていました。罪の代価を、いのちを持って償い、贖う必要があり、これが聖書で罪の報酬は死だと言われるゆえんなのです。この子羊の絵画的な描写はイエス様を表わすのに良いテキストです。

新約時代となり、イエス様が私たちのために死なれ、墓に葬られ、三日目によみがえられました。この三つの出来事を信じる時、救われるとされました。これが福音です。グッドニュースです。「罪」は裁判で使うことばですが、イエス様が私達の罪を背負い、あの十字架で流された血潮で私達の罪が赦されました。罪なき者として神はとり扱ってくださいます。

生まれたとき御子イエス様は小さい赤ちゃんでしたが、この一連の出来事は神の歴史（His Story = history）として神の計画の中にありました。父なる神は御子イエス様を地上に送ることは痛みを覚えられたと思います。しかし、何とか人類を救おうと神の愛を示されたのです。完全な世の罪を取り除く子羊なる主イエスです。恵みの時代に生かされた私達は救われる特権、資格を持っています。

さて、罪について、これはどこから来て、どのように問題をもたらししているのか、確認して「闇」についてさらにフォーカスしていきます。エデンの園でアダムとエバが、創造主なる神から食べてはならないと命じられたもの、

すなわち善悪の知識の木を食べてしまいました。食べるという行為は霊的な意味があり、それ以来、全人類に罪が入りました。私達と神1様の間に断絶が生まれました。そして私達の（良）心は歪められました。エデンの園から追い出され、言い換えれば天の御国、神の国には入ることができなくなりました。死が入り、私達の人生いろいろな諸問題やこの世の苦しみの原因はこの罪にあるのです。善悪の知識を食べて神のようになると全能感、万能感を求めたところにあります。これは自己中心性を持っています。

このようになったのは私達、人間側の選択の問題にありましたが、その背後にサタンの誘惑、悪魔の働きもありました。そのストーリーとなっている聖書箇所は創世記3章です。

創世記三章

1 さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、蛇が最も狡猾であった。蛇は女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなど、本当に神が言われたのですか」。2 女は蛇に言った、「わたしたちは園の木の实を食べることは許されていますが、3 ただ園の中央にある木の实については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました」。4 蛇は女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。5 それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。6 女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。7 すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかったので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。

今だと蛇は気持ち悪く、女性でも男性でも、とても好きになりません。天地創造の頃の蛇は今と違い、魅力的な存在でした。この蛇にサタン、悪魔が入りました。サタンの働きは人間に嘘をつき、だまし、破滅に陥らせることです。エバと蛇の会話を少し観察します。

その①「食べてはならない。触れてはいけない。」とエバは言います。しかし、神はそうには言っていない。食べてはならないと言っているのであって、触れてはいけないとは命じてはいません。これは事実を曲げています。

その②「本当に神がそう言われたのですか」という蛇の発言。これは事実上、神の言われることに疑いを抱かせます。

その③「決して死にません。それを食べると、目が開かれ、神のように善悪を知る者となることは神は知っている」と神のことばを否定します。

その④サタン、悪魔の発言を信じ、結果的にエバは食べ、夫のアダムに与え、アダムも食べてしまいました。

これは聖書のことばを曲げ、聖書のことばに疑いを抱かせ、聖書のことばを否定し、嘘の情報を信じ、行動させることとなります。そのように働くのは闇の力、サタンの力、反キリストです。ことばとはイエス・キリストのことです。

さて、先月に米国大統領選挙がありましたが、今回の選挙には不正があったのか、否か、明確にはわかりません。いろいろな情報が飛び交っていますが、今回の米国大統領選挙にまつわる現地の状況を追っている一人の牧師がいます。中川牧師という方ですが、師はフェイク情報についてこの創世記三章の言葉から次のように語っていました。

「情報を曲解し、情報に疑問を抱かせ、情報を否定し、嘘の情報を信じさせるのだ。」つまり、フェイク情報は大変、巧妙に出来上がっていきます。それを生じさせるのはこの世の闇の力です。

二千年前にイエス・キリストがこの世の闇の世界に光をもたらすために来て下さいました。イエス・キリストの誕生は正確には十二月二十五日ではありません。しかし、世の人々がこの日を祝うようになったのは、この日を境にして、一日の日照時間が次第に長くなっていくので、希望の光を見いだすためだという説があります。私はこの説が一番、気に入っています。

かつての私の人生にもこの方の光に照らされていました。なのに、この方を知らずに背中を背けて、自分の影、道も見えずに闇の中を歩んでいました。しかし、少し、顔を振り向いてこの方が照らしている光に気づきました。体全体を180度、回したと

き私の心の闇を一気に照らされました。少しずつ、自分の姿が見え始めました。本当に恥ずかしいと思いました。公にこの方を自分の救い主と受け入れることを信仰告白しました。1990年12月23日のクリスマス礼拝でした。

ヨハネの福音書一章

1 初めに言（ことば=キリスト）があった。言は神と共にあった。

2 言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。

3 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。

4 言の内に命があった。命はを照らす光であった。

5 光は闇の中で輝いている。闇は光を理解しなかった。

新しい年、2021年を迎えますが、時代は先行きが不透明な社会を迎えると思います。聖書のことばは一筋の光です。聖書は予め将来の出来事を記した歴史書、預言書です。個人的な生活レベルだけではなく、世界、社会の状況を教えてくれる指針です。歴史は聖書の論理で動いています。新聞、テレビなどが発信するメディアの情報が真実なのかフェイクニュースなのかどうか見極める助けになります。

今日のメッセージをまとめて終わりにします。

二千年前に神は愛する御子イエス様をこの世に送って下さいました。それは信じる私達の罪が赦され、救われるためでした。この世の闇を照らし、私達の心の闇を照らすため、そして私達をいのちの道、真理の道へと導くためでもありました。今日はそのことを皆さんと確認しました。お祈りします。

【祈り】

きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

天の父なる神様、

あなたの御子、イエス様をこの世に送って頂いたのは、救い主イエス様を信じる私達のためだったことを感謝します。

願わくは、キリストの御霊である聖霊を多くの人に注がれ、救いに与ることができま

すようにお願いします。

主イエス様の御名でお祈りします。アーメン。